

令和5年度 第1回北杜市健康づくり推進協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年7月12日(水) 午後3時半から
- 2 開催場所 北杜市役所 3階大会議室
- 3 出席委員 吉田和徳、津金永二、萩原長人、小尾芳、田中律子、小宮山幸枝、堀内弘、保坂智之、山田輝夫、小針長男、鈴木良長、藤森修平、清水博樹
- 4 欠席委員 有泉由佳、茅野臣恵
- 5 出席職員 清水福祉保健部長、大芝子ども政策部長、向井介護支援課長、
輿水介護支援課指導監、福祉課生活支援担当 齊藤、津金ネウボラ推進課長、
中田ネウボラ推進課指導監、ネウボラ推進課こども元気担当 天池
- 6 事務局 白倉健康増進課長、佐藤栄養指導監、健康づくり担当 有賀、佐野、坂本
- 7 会議録署名 津金永二委員、萩原長人委員
- 8 公開・非公開の別 公開
- 9 傍聴人 2人

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 部長あいさつ
4. 委員紹介
5. 職員紹介
6. 会長・副会長の選任
7. 会長あいさつ
8. 議事(議長 会長)

(1)第3次北杜市健康増進計画 令和4年度の実施状況について事務局より説明する。

質疑応答

議長	令和4年度の第3次健康増進計画の取り組みの状況の説明がありました。多くの項目に渡っているので、資料を作るのにあたっては大変苦労されたと思います。これにつきまして、ご意見ご質問等ございますでしょうか。もしありましたら、挙手をお願いします。
委員	健診の質問ですけども、健診の受診率というか、受けた人の割合は、例えば市でやってる総合健診で率を出しているのですか。それとも、今、割とお医者さんで健診を受けている方もかなりいると思うんです。そういう人たちの数は受診率には入ってないのですか。それともそういうものも含めて何か調査をしているのですか。
佐藤栄養指導監	健康診断の受診率ですけれども、市で把握できるという範囲で、国民健康保険に入っている加入者の皆様と後期高齢者医療保険に入っている加入者の皆様の数がベースになっています。
委員	例えば私が胃のバリウムを飲まないで、胃の検診をしないで、他の医者で内視鏡でやったっていうのは、市は把握しているのですか。

佐藤栄養指導監	いえ、市の総合健診と人間ドックのみになりますので、把握はしておりません。
委員	していないということは、健診を受けている数というのは、これではぴったりじゃないですね。もっと健診を受けている人はいっぱいいるってことですね。うちの近所でも、お医者さんでしかやったことがないなんて人もいます。
佐藤栄養指導監	社会保険の皆さんが会社で受けている健診や個人的に近くの医療機関等で受けている健診については把握ができていません。
議長	はい、ありがとうございます。毎年こういう質問が出ますが、実際、国民健康保険加入者で健診を受けている方の数は把握できるんですけど、会社でやっている健康診断は把握できないですね。それから資料の健康管理のところの8の2の「基本(特定健診)受診率」というところの、実績値に対する課題考察の欄に、真ん中へんですけど、「令和4年度よりみなし検診を開始したが、利用者は少なく、みなし検診の周知が必要」と書いてありますけども、これは例えば、医療機関に行っていて、血液検査をしたり、それから胸のレントゲンとったり、いろんなことしていることがほぼ、健康診断の内容に一致しているということをやっている場合には、医療機関にその紙を持って行っていただいて、書き込んでいただければ、もう健康診断を受けたものだというふうにみなしてやっているんですが、なかなか、その用紙を持ってくる方がいない。なので、みなし検診をもうちょっと、周知していただければ、実際に健康増進課で把握している方よりも、もっと多くの方が健康診断、みなし健診を含めて、受けていらっしゃるというふうに判断してよろしいかとは思いますが。よろしいですか。事務局の方、付け加えることはありますか。それでは他に何かご質問はございますでしょうか。
委員	今の件ですが、前にもそのような話が出たときに、健診の通知を配ったときに、みなし健診とはまた別ですが、他の医療機関で個人的にやっているものの項目みたいなものを、アンケート式に受けない理由みたいな形で、これこれこういう形でここを受けているからというふうな返答をしてもらっているという話を聞いた気がするのですが。そうすると、市の健診だけが、もちろんそこを受けるのが一番いいのかもしれませんが、個人的には自分が持病を持っていて、いつもかかりつけのお医者さんに全体的に年間通して健診をしてもらっているという方は、市の健診を受けない人もいますよね。きっと。だから、自分の健康管理を自分で

委員	<p>しているかっていう部分では、しているとは思っているので、どこまで市はそれを求めるかっていうことです。市の健診を求めて、この値を出す方がいいのか、それとも全体で、そういう健診まで含めて、健康寿命を延ばすための健診なのか。そこら辺をどういうふうに扱っていくのかなってことを、今聞きながら、前もそんな話を聞いたような気がいたしますので。今後の方針として。他で受けていれば、ここは数値的には全然上がらない。でも受けている人は増えているのか減っているのか、そこらへんがわかりますよね。そここのところちょっと教えていただければと思います。</p>
佐藤栄養指導監	<p>今、委員さんから言われた、どこかで受けているかっていうことの把握についてですが、毎年、資料の7番にある「健康診断希望調査返答率」というようなものをとっておりますけれども、全世帯に健康診断の希望調査という紙を出しています。その中の項目で、職場や学校で受けるっていう項目、それから近くのお医者さん、病院で受けるっていう項目、それから市の健診を受けるっていう項目があります。それを選択していただいて、こちらではその数を本当は把握をしたいところですが、そちらの返答率を見ていただいてもわかるように、現在60.3%の方しか返答がない状況です。この辺のところを何とか上手く周知をこれからたくさんさせていただいて、委員さんのおっしゃった、病院で受けている人の数とかが明確になると、本当の姿ではないかというふうに考えております。現状ではちょっとそここのところが難しく、課題となっている部分と考えております。</p>
議長	<p>よそで受けていますっていうのを一筆書いて、北杜市に送り返していただければ把握できるところが、なかなかそこまでいってないというような話ですね。よろしいですか。</p>
委員	<p>みなし健診が周知されてないってことですが、希望調査の返答で近くのお医者さんで検査を受けられた方は、みなし健診をやっているってことですから、この人には、積極的に結果を提出してもらおうことができるのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、病院を受診している方に周知をさせていただいて、病院の方から結果を返していただく、ということが一番市民の方の負担も減ったりするのかなというふうに思いますので、それで、みなし健診を去年から取り入れております。ただ去年が初回になりましたので、少し対象者を絞った中での実施であったので、少ない面がありましたが、委員さんのおっしゃる通り、もうちょっと対象者を今年は増やして実施をして、より市民の皆さん</p>

事務局	への周知をしながら、受診率もあげていったり、把握なんかもできたらいいなというふうに、思っているところです。
委員	周知というよりも、返答が来るわけですよね。60%は。その中に、医療機関で受けたっていう人には、みなし健診を出してもらうように働きかけたらどうでしょうか。
事務局	みなし検診をしますよって手を挙げてくださってる医療機関が限られているということと、みなし健診のような項目で受診されてるかどうかっていうところを確認しながら、対象者を決めておまして、もちろん希望調査の返答も考慮させてもらいながら、主治医ですとか、お医者さんへの受診状況とかもあわせて見て、実施をしているところです。
委員	医師会の方の協力が得られないということでしょうか。
議長	毎年、山梨県医師会からみなし検診の協力医療機関の要請がきます。1年単位の契約ですけれども、北巨摩医師会は旧双葉地区と韮崎市と北杜市の診療所が50いくつがあるんですが、その中で、多分10前後手を挙げています。だからさっき事務局がおっしゃったように、手を挙げている医療機関以外のところに行っている方は結局、出せないことになってしまうんですね。ただ、まだ周知されていないこともあって、その用紙を持ってくる人がほとんどいないから、1年ごとに、ついこの間も募集があったので、FAXを回して医師会員に確認を求めましたが、あまりにもその用紙を持ってくる人がいないので、「僕は、去年申し込んでありましたかね」というふうな電話がくることがあります。だからそれくらいまだ周知が行き渡っていない。これは北杜市だけじゃないと思いますが、それを持ってきていただければ、そんなに手間じゃないので、書けるんです。それからついこの間、韮崎市の整形外科が、「やります」とて手を挙げてくれました。項目を見たら整形外科でも書ける状況だなということで、手を挙げてくれたんです。ということになると、例えば内科だけじゃなく整形外科のような専門の医療機関でもできるということであれば、ぜひもうちょっと、全国的にどの程度周知されて利用されているか、数までは把握していませんが、あまり実際には稼働してないというのが本当のところじゃないでしょうか。よろしいでしょうか。その他ないでしょうか。質問が出尽くしたようでしたら、1番目の議題はこのあたりできりにさせていただきます。

(2)第3次北杜市健康増進計画 重点目標「こころ」「休養」について事務局より説明する。

質疑応答

議長	はい、ありがとうございます。重点目標こころ、休養についての説明がありました。ご質問ご意見等ありますでしょうか。
委員	資料の最後に、「地域でできることはありますか」って記入欄があったので、そこにもちよっと書いてみましたが、今聞いた中で、原因が大体わかっているものも多いと思います。例えば、ちっちゃい子とか小・中学校・高校生ぐらいまでは、メディアとかゲームとか、そういうネットワーク関係から生活のサイクルが悪くなって睡眠不足になって、そしてこころの病気もそれに平行していく部分もあるのかななんて思います。今からどういうふうになれば直るかってことを私達も考えていかなければいけないっていうところで、まずはここに手をつけてみようって一つの目標を持っていくとどうかなと。そうすると段階的にやっていくのではなくて、全市一斉に、例えば、母子から。母子の場合にはゲーム脳とか、子供たちを保育するネット保育というのがあるんです。お母さん忙しいからインターネットとか何かいろいろゲームを見せておいて、自分はその間に洗濯をしたり家事をしてる。ちっちゃい子は、もうちっちゃい頃からそれが当たり前になっているから、だんだん脳を使うそのおかしい部分だけが発達して、という研修をこの間受けましたが、そういう母親と子どもに対するメディア関係のこと。それから小中高保育園も含めたメディア教育。これは子供たち自身が聞けばわかるそういう教育を、どこの学校でも、どこの保育園でも、または保護者を対象に多分やっていると思うんですが、そういうものを周知する。そして大人もやっぱり同じように自分たちも結構メディアに侵されている部分があるから、そこを子どもの見本になるような、うまくアウトオブメディアのような、1日の中で使わない日を作るとか。そういうことを、市全体で、あるいは社会全体での方がいいかもしれませんけど、そういうメディアに対するルール作りをする。家庭でルールを作って、社会でも何かルールを作って、そしてそういう教育を一斉に「令和5年度はそれをやっていこうじゃないか」と、行政も絡み合わせて地域でもそういう形で学校教育もそういう形で、というふうな何か一つのメインを決めて、それをやることによって睡眠が取れたり、休養が取れたり、あるいは働き方改革ができた、そういうふうなうまい方向に、体制を変えていく、そういう仕組み作りをしていく。もっと言うと、大人が生きがい作りみたいなものをしていく。私達の時代は60歳で定年退職だったんですけども、今の方はもう

<p>委員</p>	<p>70ぐらいまで働かなきゃならないから、第二の人生にそこから何か生きがいを見つけてなんていうのはあんまりないような気がします。そうすると、子供の頃からスポ少をやったり趣味を広げたり、そういうベースを作っていて、大人になっても伸ばしていったら、そうすると、生きがいとしてやっていくようなベースを健康づくりに働き方づくりに活かしていったら、メディアだけを頼るのではなくて、自分の何か創造的な部分、作り出す部分を広めていくような、そういう生き方を推奨していくようにすれば多少変わってくるのかなんてことを思いながらここにずらずらと書いてみました。どうでしょう。例えば、市役所には何かクラブ活動みたいなものがあるって、そして活動している人は、たくさんいるんでしょうか。というのも、働いているときからそういうものやっていたら、生きがいづくりなんてなかなか難しいような気がするんです。「私何が好きなんだろう、何を伸ばしていこう。スポーツをしなきゃと言ったって、毎日仕事で忙しくてできないよ」とかね。そうするとクラブ活動を作ってみんなで週に1回は活動しようとか、それが自分のライフワークになっていったらいいんでしょうけど、そうすると、健康に結びついていったら睡眠に結びついていったらするような気がします。そこら辺を一斉にやっていくような方策をどうすればいいか考えていくといいのかなんてことをちょっと思いました。取り留めのない話です。</p>
<p>白倉健康増進課長</p>	<p>非常に難しい問題ではありますけれども、実際メディアを、例えば、スマホとかパソコンをずっとやっているからといって、それはその人が不幸であるかっていうと、必ずしもそうではない。それをやっていることによってところが豊かになる方もいますし、逆に豊かにならない方もいます。今回のアンケートの中では睡眠不足の方が非常に多いということは、満足な人生というか、ところが満たされていないということがわかるかと思えます。そういう方に対してどのように市として指導していくかというのは、非常に難しい問題でありまして、こころのことなので人それぞれいろいろな傾向がありますし、例えば子供なんか特にそうですが、やらないっていうふうに、頭から塞いでいくっていうのもなかなか難しいところでもあります。ただ、我々としてはこういう問題に対して、例えばやることによってどんないいこともあり、悪いこともあるっていうことを明らかにしながら、あとは本人たちがどうするか。要するに、まあ、なんとというか、難しいです。これに関しては非常に。</p>

<p>委員</p>	<p>思うに、対象を睡眠不足の人だけに焦点を当てるのではなく、全体に生きがいを持てば心も安定して睡眠が一応取れるという仮説を立てる。生きがいがあれば、心が安定してれば、まあ、忙しい人は寝不足になるかもしれませんが、何らかのかたちでストレスを解消して睡眠が取れている。そうすると、眠れない方だけを対象にしてどうすればいいかではなく、世の中全体をシフトしていく。70歳になって退職してから、何か生きがいをというのではなく、若い頃からというか、企業や市内いろんな商売を含めて、仕事をしながら生きがいみたいなものを作ろう。それが仕事とイコールであればそれはそれでいいし、イコールでなければ何かの形で生きがいづくりをしていく中で、心を安定していく中で睡眠が十分とれるし、仲間作りもそういう活動の中からコミュニケーションづくりもできていくのでは。じゃあ、それをするためには、まずはメディアをちょっと焦点に当てて市全体でやってみるかとか。市全体でやる時には、赤ちゃん、子ども、母親、それから小中高生、それから大人まで、という形で何か策を練れば面白いかなんて思います。ダメですかね。</p>
<p>白倉健康増進課長</p>	<p>非常に難しい問題を提起させていただきました。これが正しいってというのは、なかなか難しいとは思いますが、現実にある目の前にある形とすれば、もうそこは市民、こういう心の安定が取れていない方がなかなか割と多いところを考えた上で、これから先こころの健康も当然必要になってきますし、体の健康とともに、こころも健康でいていただくための多い引き出しを持って我々も活動して、皆様のご意見を伺いながら、活動していきたいと考えておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>議長</p>	<p>世の中の便利さと効率を求めるあまり、24時間営業の店ができたり、24時間稼働してお盆と正月以外は動きっぱなしの工場があつたりして、そこに人間を張り付けるっていうことになるのとシフトワーカーが出て睡眠障害が出たりとかっていうことに多分なつてきつたんだと思ひます。基本的には明るい時間に働いて暗くなつたら寝るのは一番人間にストレスがないのかとは思ひますけども。ここまできつたら何ともしようがない。ただ、あまりお客さんが来ない時間帯のコンビニの閉店をすつとか、あんまり効率の悪い時間帯には店を開かないとかっていうふうにな世の中も少し、後戻りというか向かっているようなところも一部出てきたような気がすつので、ここまで来たら急に昔には戻れないと思ひます。先ほど課長がおつしたように、いろんなものが複雑に</p>

議 長	絡み合っているので、単純に「こうすればいい」って話にならないかもしれませんが。大変難しい問題だと思います。世界中が抱えているんじゃないでしょうか。この問題は。ただ、山梨県の人が日本全体から比べると、睡眠不足が多いっていうのはどうしてなのでしょう。わかりますか。よくわかりません。
委 員	睡眠不足が、全て不健康な生活の中で睡眠不足になっているか、というふうに考えたところ、生きがいのあるものにのめり込んでいる人は睡眠が少ないんです。そういう生きがいを持っている人もいるし、それから、小学生中学生がなぜ睡眠不足になるかっていう部分のところは、何もスマホやゲームだけじゃないと思うんです。忙しい生活なんです。子どもたちは。とにかく忙しい。それを全部親がさせているんです。はっきり言って。「勉強しなさい」と。私の知っている子は、1週間のうちに5日ぐらいもう完全に塾とそれからスポーツ少年団での活動。本当に自分の自由になる時間ってのはどのくらいあるんだって聞きたくなるような、そういう生活を小さな子どもがしてるんじゃないかなっていう気がするんです。その辺のところから、子どもたちに対する対応っていうのは、親と子どもと本当に話し合えるような生活習慣ができていくかどうかというところが大きな問題であって、我々がなかなかこういうふうにしなきゃダメだよ、と思うようなことも小中学校の先生方が必ず指導して、うんと指導してくれているんです。でもその通りなるかってなかなかそういうふうにならない。ということも一つあると思うんです。私の言いたいのは、睡眠不足が、生きがいがなくなるとか、他のものにのめりこんでいるからなるって考え方は、ちょっと短絡的かなというふうに思います。それから、年を取って生きがいが見出せないというその考え方もまた少し極端。それぞれの人生の中で自分が仕事に生きがいを持ってやっていて、それがなくなったときに、次にきてどういう生きがいを持っていくか、そちらにいらっしゃる委員が対応している老人クラブですが、そういう問題をうんと深く突き詰めて、指導とか、お互い話し合ってるんじゃないかなっていうふうに思うんです。ですから、その辺のところを我々は考えながらいきたい。一番大事なところは地域にコミュニケーション、いわゆるコミュニケーションづくりが地域にあるかどうかっていうのがものすごく大事なんじゃないかなというふうに思っているんです。年寄りが外へ出てやあやあっていう話をする場がなくなっている。今、青年よりも年寄りのいわゆる引きこもりが何かうんと増えてるような感じが私たちにしているわけですよ。その辺のところか

委員	<p>らまた何か施策があったら、それぞれの地域がそういうところを目をつけながら皆でもってやっていくような方法っていうのをとること。それが生きがいを見出したり、あるいは体を一生懸命使うから、夜よく寝るようになる。そんなふうなところもあるんじゃないかと思うので、多面的にいろんな形で考えていくべきかなというふうに思いました。</p>
委員	<p>全くその通りだと思います。私がたまたま例を出したのは、そういう生きがいづくりを、もちろん仕事が生きがいだったりそういうものが睡眠と結びつくのか、まあ、安心したところっていうのは睡眠に結びついているのかとは思いますが、そういうものを、若い頃から少しずつやっていくことも一つの案かなという意味で、そんなお話をさせていただいたし、メディアもそれが原因で睡眠不足になるってこと、これは一因ではあるだろうけれど、全体ではないと思っています。そういう意味で、一因のその部分をうまく、忙しい子どもたちの生活の中の一因のその部分もちょっと考えていってあげると、朝早く起きてご飯を食べて学校へ行けるような生活が来るのかなと思って、すごく極端な言い方をしました。本当に若い頃からやっぱり、そういうふうな生活スタイルにしていくということがとても大事なことだということで、一石を投じさせてもらいました。おっしゃる通りで、いろんな要因があるその要因を一つ一つうまく解決していかないと、なかなかこの問題は解決できないのかなって。で、学校教育の中で負うものも多いし、それから母子教育、母子保健教育の中で負うものも多いし、それから地域の中はとても大事だと思います。じゃあ地域のつながりがどういうふうにしていけば、昔のような地域の繋がりとか声をかけ合えるような状態になっていくのかなって、そこもやっぱり一つの考えどころです。私は愛育会をやっていて、愛育では、特に健康面をずっといろいろ気遣いながら声掛けとか見守り運動をしていくというのが目的ですけども、地域の中に声掛けをしたりしていく、そういうことを班員さんたちはみんな努力していただいているんですが、でも今現実的には、愛育会活動の愛育の組織がなくなっている。そんなものいらなくて、要するに子供が生まれないからいらなくて、役員さんを決めるのが大変だからいらなくて形でなくなっていく。そうした声掛け見守りもだんだんだんだん少なくなって、繋がりがなくなっていく。そういう部分をどうすれば、地域で「こんにちは」とか「元気ですか」とか「具合はどう」とか「変わらない」とかって声かけがずっと繋がっていけるようになるのかなって。そういう言葉がやっぱり、先ほどお</p>

委員	<p>っしやったように繋がりは大事であって、そして心の安定がそこで得られてそして睡眠とか、そういうところに繋がっていくのかなってことも思うんですが、なかなか難しいです。一つ一つこうやって解決していかなきゃならないものが多すぎて。それで、一つだから皮切りとしてメディアをやってみたらどうかって話をしたんです。いろいろな捉え方があると思います。とにかく若い頃から何か繋がりを求めるために、クラブ活動とか趣味の繋がりとか、企業の中でも市役所の中でも、いろんな地域の中でもそういうものを一つ皮切りにやってみたら何か違っていきのかななんて気もしないでもないし、そんなことを思いました。</p>
委員	<p>確かにこの、パソコンとかネットを5時間以上やるっていうのはですね、これは今「ネット依存症」という病気がもうあるんです。1日24時間って決まっている中で、5時間以上やるのはどうかと思うんです。やはりここはしっかり1日2時間って決めるとか、テレビは2時間と決めるとか、そういった時間を制限して小学校とか中学校とかそういうところでしっかりやって、睡眠とか食事とかそういうところに影響を出さないようにすることがやはり重要だと思いますので、やっぱり学校教育にそういうことも取り入れてネット依存症にしないということが大事だと思います。もう一つ、認知症が結構増えていて、今から要介護になっていくということですから、認知症にどうしてなっているかってことを、やはりちょっと1回ちゃんと検証した方がいいと思うんです。仕事を辞めてからずっと家でぼーっとしてたら認知症になりやすいとか。北杜市は農業が盛んですので、リタイアした後農作業をしたら認知症になりにくかったとか、そういったことを調べて、どういう生活していたら認知症になりにくいのか、一回検証した方がよろしいかと思うんですけど、どうでしょうか。</p>
輿水保健指導監	<p>今、先ほど高齢者全体というふうなお話が出ていましたし、引きこもりであったり、いろいろ考えを使ったり、地域の中で活躍をしたりといういろいろなお話をいただいていますけれども、介護支援課においても、いくつになってもその人らしい生活ができるように、それがひいては安定した生活に繋がるということで、生活リズムが整い睡眠が整うと考えて活動をし、また皆さんに啓発をしているところでもあります。そういった中では、例えば健康な方であれば社会福祉協議会のご協力もいただきながらいきいきサロンであったり公民館カフェであったり、市民の皆さんで高齢者の方が集う場を提供していただくという事業があります。昨年度は高齢者の方、延べ1万4577の方が北杜市が実施をした通い</p>

<p>輿水保健指導監</p>	<p>の場事業に参加していただいているところです。その中において、社会福祉協議会さんから令和3年度のデータをいただいているところですが、ちょっと確定の数字ではなく私のうろ覚えの数字で申し訳ありませんが、確か7,000人近くの方が、そういった集いの場にご参加いただいているという実績があります。また介護を受けている方たちにつきましても、何か生きがいであったり、目標を持って頑張っていたことが生活リズムに繋がるということで、ケアマネジャーさん方が実際に介護が必要とされる方にも「何か今やりたいことがありますか。それに向かってでは頑張っていきましょう一緒に。」というふうな声掛けをさせていただきながら、生きがいづくりというところを目指しているところです。先ほど委員さんから認知症について少しいろいろ掘り下げいてみるといういいんじゃないかというご助言をいただきました。現在北杜市におきましては、65歳以上の令和4年度のデータとなっておりますけれども、1,719の方が認知症と言われている現状です。これはおそらくもっと多いんでしょうけれども、介護保険の中で認知症を主体として申請をされている方の数字になっています。全高齢者に対する認知症の介護保険の申請の出現率ですけども、北杜市においては9.3%というところで、例えば甲府市ですと14.1%であったり、近隣の韮崎市だと9.8%。南アルプス市ですと11.7%という状況の中の北杜市の認知症の介護保険の申請における出現率という割合になっています。まだそれがどういった形で認知症の方が出てくるのか、生活リズムでは先ほど、農作業であったりとかというふうなところもありましたが、そこはまだ掘り下げている状況ではございませんので、今後少しずつそういったことも地域の皆さんに確認できたらと考えております。介護支援課におきましては、今年度から地域包括支援センターで認知症地域支援推進員を1名増員いたしまして、2名体制で認知症になるのを遅らせる地域づくりの活動をしていくということになっておりますので先ほど委員さんからご助言いただいたことも含めて少し要因を掘り下げていけたらと思っております。</p>
<p>佐藤栄養指導監</p>	<p>委員の皆さまには、資料の2の一番最後の5というところで、本日健康づくり推進協議会でご意見いただきたいことという欄があります。皆さん、今日記入をしてきていただいたかと思います。もし記入がある方がいらっしゃいましたら、ぜひその場に置いていただいて、私達の事業の参考にさせていただければと思いますので、どうぞご協力お願いいたします。</p>

議 長	はい、おねがいします。今後の健康づくりについての参考にさせていただきます。市役所の方では対応して下さると思います。よろしくお願いいたします。
-----	--

(3)今後の予定について事務局より説明する。

質疑応答

質問なし

(4)その他について事務局より説明する。

いいことチャレンジ2022結果、介護予防サポートリーダー養成講座、健康教室、ゲートキーパー養成講座、ゲートキーパー手帳、こころの相談窓口 について説明

質問なし

9. 閉会(田中副会長)

以上、令和5年度第1回北杜市健康づくり推進協議会の内容を記載し、その内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 _____

署名委員 _____